

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0191000132		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム 若葉 (ユニットA)		
所在地	江別市野幌若葉町86番地1		
自己評価作成日	平成31年2月3日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000132-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成31年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅と牧草が広がる中に行んでいるホームです。周辺に小学校や大学があり、不定期ではありますが小学校の子供たちの訪問があり、交流も行われています。暖かい時期にはできるだけ外出の機会を設け、さんぽや外出レク等で楽しい時が過ごせるよう努めています。また、季節に添った行事の活動を行い、季節感を感じていただけるようにしています。日々の生活では、調理や洗濯物たみなどを通して自立支援につながるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市野幌の西方向にある閑静な住宅地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には、小学校と大学がある文教地区である。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め、医療系有料老人ホームや訪問介護、通所介護、訪問看護、居宅介護支援を旭川市を拠点に札幌市や道内、首都圏で運営しており、積極的に高齢者介護の支援を行っている。母体が医療法人な為、24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的にチームで対応している。また、今年度からは、法人内のPTと連携して、生活機能向上の連携支援も行っている。事業所内は広くゆったりしており、利用者はリビングで寛いでいることが多い。近隣の小学校の生徒の来訪やボランティアによる演奏と踊りなどがあり、避難訓練には消防団の参加協力もあるなど地域の一人として、事業所が認識されており、笑顔の絶えないグループホームにこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホームの廊下などに掲示し、常に職員や入居者様の目に入るようにし共有している。またユニット会議では読み上げ確認している。	「その人らしい生活を送る」という理念を掲げて、ユニット会議等で読み上げ、職員全体で話し合い具体化して実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加していただいたり、地域の小学校の特別支援学級の児童との定期的な交流がある。また地元の消防団の方に避難訓練に参加していただいている。	町内会の方が運営推進会議に参加しており、事業所からは町内会の総会などに参加している。また、近隣の小学校の児童が年2～3回定期的に来訪しており、消防団も避難訓練に参加協力しているなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に入居者様にも多数参加いただき、地域の方や家族様に認知症について理解いただくよう関わって頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	御家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加により2ヶ月に1回開催しており、会議の場でご意見をいただき、サービス向上に活かされるように努めている。	運営推進会議は、本人や家族、地域包括支援センター担当者や江別市認知症地域推進支援推進員、町内会役員や民生委員などが参加して定期的に開催し、運営状況の報告や情報交換、意見交換などを行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況の報告や、事故報告や運営推進会議の議事録提出を随時行っている。また認知症サポーター養成講座のステップアップ講座での施設研修の受け入れも希望があれば受け入れるよう登録している。	市担当部署とは、入居状況の報告や事故報告書、現況報告書を随時提出して連携している。また、認知症サポーター養成講座の受講生の施設研修を受け入れるなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関の施錠をしているが、日中は入居者様や外部の方が自由に出入りできるよう開錠している。また身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごとに開催し、身体拘束について意見を出し合える場を設けている。	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置して、指針やマニュアルを整備して、3ヶ月に1回定期的に検討会を行っている。また、法人内の研修会の参加や事業所内の内部研修などを実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修の参加や勉強会等を通して虐待について学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者様はいませんが、研修会等に参加し制度を理解する機会をもうけていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不明な点があるときはいつでも問い合わせしていただけるよう説明している。また家族様からの苦情には、話し合った改善内容をお伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要説明事項説明書にて苦情受付窓口の説明や、運営推進会議時にご意見をお聞きするなどしている。	家族には運営推進会議の議事録にホーム内の写真を添付して、運営状況の報告をしている。また、利用者の生活状況は、担当者が毎月手紙を書いて報告している。意見箱は玄関に設置しているが、家族の意見や要望は来訪時に殆ど聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議での意見交換や、日々の業務内でも意見を聞く機会を設けている。	ユニット会議を月1回開催し、個人面談は定期的に年2回実施している。また、法人内に教育委員会や安全対策委員会、感染症委員会などがあり、職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得状況や勤務年数に応じて昇給や資格手当の支給が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加促しや、定期的な職員評価を行い職員の力量を把握している。新入職員に対しては指導者をつけスキルアップができるよう努め、1ヶ月3ヶ月後には疑問点など面談を設け確認指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	月1回、市内のグループホームの集まりを通して情報交換やネットワークづくりを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人の自宅や入院先等を訪れ、できるだけ御本人のご希望を聞くようにし、ホームでの生活に対する不安を取り除けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族様の困っていることや不安なこと、要望等をお聞きし、良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談やアセスメントを通し、必要なニーズを把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができることは積極的にしていただき、困難な部分は職員がサポートすることで、共に生活を作り上げる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の情報提供を行い、ご意見をいただきながら、入居者様のホームでの生活を共に支える関係を築いている。御家族様に協力いただける部分はお願しいケアプランにも記載している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの電話や手紙の取り次ぎや、面会時に落ち着いて話すことが出来るよう居室へ案内する等心がけている。	利用者が地元出身が多い為、友人や知人の来訪が多い。元の家や墓参りなどは家族が同行して行っているが、馴染みの美容室は送迎付きで利用している。また、近隣のコンビニなどの買物は職員が同行して個別に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を日々観察し、良い関係性が築けるよう努めている。また、職員が入居者様の間に入ることで孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、その後の相談に応じることができる旨を説明している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を理解し、本人の希望にあった生活ができるよう支援している。	利用者の殆どが自ら意思表示ができる為、一人ひとりの意見や希望を聞いて支援に努めている。また、話せない人には個別に意思表示の確認を行って、意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やセンター方式シートにより生活歴を把握し、ホームでも安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の行動や言動を介護記録に記録することで状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様に都度ご意見をいただいたり、担当職員によるモニタリング、ユニット会議等で意見を出しあい、介護計画に反映させている。状況に変化があれば都度見直しを行っている。	利用者毎の担当者が本人や家族の意見や要望を聞き、主治医や看護師、PTの意見も意見も含めモニタリングをして、カンファレンスで検討して、計画作成担当者が利用者の現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記載し、気になる点は申し送りを行うことで情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊、面会等特に制限は設けておらず、その時々に応じ柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力のもと年2回避難訓練を実施している。また、家族様にも協力いただき外出支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人や御家族様の希望を伺い、入居前のかかりつけ医を継続する場合は、受診前に御本人の情報を同行する御家族等に提供している。	以前からの専門医等は家族が同行して受診しているが、精神科については職員も同行している。利用者の殆どは協力医療機関の主治医で、月2回の往診と週1回の訪問看護で、24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により毎週看護師の訪問があり、普段の様子や状態を伝え適切な指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子や状態を入院先へ随時お伝えしている。また提携医療機関とは常に情報交換を行ない、職員間でも情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時にリビングウィルを取り交わし、御本人や御家族の要望にお答えできるよう努めている。職員間でも都度話し合いや、対応等について検討している。	入居契約時に重度化や終末期の対応についての説明をして同意を得ている。重度化した場合は、主治医からの説明で再度本人や家族と打ち合わせして、意向確認書を交わしチームで連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜想定での避難訓練を実施しており、地域の消防団にも参加いただき、消防隊員からアドバイスをいただいております。運営推進会議等を通し地域住民の協力を得られるよう依頼している。	火災の避難訓練は、昼夜想定で消防署の指導の下、消防団の協力により、マニュアルや備蓄、備品を整備して年2回定期的に行っている。	火災の避難訓練は定期的に年2回実施しているが、自然災害時の避難先への避難経路などの災害マニュアルの整備と避難訓練を期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育委員を設け、接遇に関することを各事業所間でも話し合い、また接遇に関する勉強会に参加する等し、入居者様の誇りやプライバシーを損ねないような言葉づかいや対応を心がけている。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内の接遇の研修会に職員が参加しており、事業所内でも接遇の研修会を行って職員が学んで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で御本人からの希望や要望がないかお聞きしたり、小さなことでも選択肢を設けることで、自己決定の機会が増えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の日課やレクリエーションを行う際は、入居者様に意向を確認してから行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望に沿った服装ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容については、日々の会話の中で何が食べたいかお聞きし、メニューに取り込んでいる。食材切り等の下準備や盛り付け、食器拭き等の調理に関することを入居者様と一緒にできるよう取り組んでいる。	献立や食材の買い出し、調理は職員が行っている。利用者は、食材の下準備や盛り付け、食器拭きなどを手伝っている。行事食は、誕生には本人の食べたいものを用意しており、チラシ寿司や鍋パーティー、どら焼き作りなど行っている。外食は、和風レストランや食堂、防災センターのレストラン、ショッピングセンターの飲食店街などへ行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分摂取量は毎日記録し把握している。咀嚼力や飲み込み状態に応じ、形態を変える等して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、ご自身の口腔ケアが困難な入居者様には職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に個々の排泄状況を記録し、間隔をみながらトイレでの排泄ができるよう声掛けを行っている。	利用者毎の介護記録から排泄状況を確認し、職員間で共有して、利用者一人ひとりの仕草や表情を観察しながら、声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供や食事で野菜等の繊維質の物を多く摂取できるよう努めている。また、排便状況を把握し下剤の使用が最小限ですむよう医師と相談しながら調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的には入浴の曜日は決まっているが、入居者様の希望に応じ、曜日や時間を変更し臨機応変に対応している。	入浴は週2回で、基本的に入浴日も決めているが、利用者の希望や状況に応じて、曜日や時間なども個々に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態や希望に応じて日中休憩時間を設けている。また、夜間良眠できるよう日中活動にお誘いする等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに処方された薬の情報に関しては職員にその都度伝えている。また個人ファイルに薬情報をファイリングしており、常に職員が薬の副作用等が確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人や御家族から生活歴や趣味の情報を引き出し、対応できるよう努めている。また、日常生活の中で役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを通して普段行きにくい場所へでかけられるよう取り組んでいる。自宅や美容院への外出はご家族様や美容室の協力を得ながら実施している。	日常的に近隣の散歩や外気浴を行っている。外出行事は、お花見や紅葉狩り、開拓の村の見学、町村牧場、とんでんファームでの動物とのふれあいなど季節に応じた外出行事を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理ができる入居者様については、高額でなければ特に制限を設けてはならず、金銭を持つことで御本人が安心できる状況を作れるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を通しての交流にも制限は設けていない。希望があれば手紙を出したり電話をかけることができるよう都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に、活動として作成に携わっていただいた、季節の飾りつけや張り絵で壁面を飾り、季節感を感じていただけるようにしている。	共用空間は、風通しや採光もよく、明るい感じで、壁に行事の写真や季節感あふれる飾りつけがあり、利用者の写真や作品も飾られ居心地の良い空間を作り出している。リビングや食堂、廊下は広くゆったりしており、利用者は日中は殆どリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの他、くつろげるスペースとしてソファを用意しており、それぞれが好きな場所で過ごすことができるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人のお気に入りの物、使い慣れた物を持ち込み可能であることを伝えており、できるだけ安心して生活できる環境づくりに努めている。	居室には、洋服ダンスやベットを事業所で設置しており、採光もよく馴染みの使い慣れたものや仏壇などを持参して居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはご自分の部屋とわかるよう表札を付け、トイレや風呂場もわかりやすいよう表示している。		